

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに
広くお読みいただければ幸いです。



本覺山 妙壽寺 〈法華宗（本門流）〉

〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1

電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427

ホームページ http://myojyuj.or.jp

無縁社会と寺縁その26

去る3月9日、福島市立正院において法華宗主催の東日本大震災第七回忌追悼法要が、法華宗管長小西日邊親下大導師にて厳かに奉修されました。

6年前の震災の日、数多の命が失われ多くの方々が傷つき、その日を境にして人生が激変をしたことを思うと、あらためてその悲しみの深さに言葉がありません。

昨年秋に各宗派の有志による宮城巡礼の会に参加し、名取市閑上（ゆりあげ）で活動する「閑上の記憶」語り部の方の話をうかがう機会を得ました。四十代の主婦であるこの語り部の方は、津波によって息子さんを失い、また、ご主人のご両親を亡くされました。娘さんと閑上小学校の屋上に避難し見失うまで大声で息子さんに避難するよう叫んだということでした。閑上地区の航空写真を元に話すその姿に胸が熱くなる思いでした。この語り部を続けることによって、自らも心の塞ぎを解き放つ一助となっていると最後に話された一言は、強く印象に残りました。

未だに仮設住宅に住まわれている方々や、故郷を離れそれぞれに住まわれている方々の心情を思うとき、私どもは祈り、弔うことと共に、被災地を訪れ、また被災された方々に直接、間接的にかかわっていくことの大切さを改めて思う今日この頃です。

鴛 鴦



当山猿江別院本堂内陣八角宮殿・右下は全景

当山猿江別院落慶法要並びに
稲生・大竹家永代供養法要

御導師当住上人（中央）と組寺並びに法類各上人

5月1日、五月晴れのなか、当山猿江別院落慶法要並びに稲生・大竹家永代供養法要が八角堂宮殿を前にして、組寺各上人ご出仕にて稲生恵子夫人（別院一建立ご寄進施主）、ご親族、法類各上人、総代世話人婦人会、崇敬会および工事関係者が参列して厳かに奉修されました。

法要後、落慶祝賀会が錦糸町・東武ホテルレバント東京にて和やかに開催されました。



祝賀会での清興・仕舞「高砂」（浅見慈一師）



唱題の稲生恵子夫人



祝賀会での当住上人御礼挨拶

寺日記

てらにつき

● 3月2日 宗教法制研究会

於 霞が関・日本弁護士会館

● 3月3日 興隆学林卒業式・学務協

於 尼崎

● 3月9日・10日 東日本大震災第七回忌追悼法要

福島市松川町立正院（住職矢吹慈英上人）において、法華宗管長小西日邊親下大導師にて東日本大震災第七回忌宗門追悼法要が厳かに奉修されました。翌10日には名取市閑上、仙台市荒浜において追悼法要が修行されました。

● 3月10日 全日本仏教青年会東日本大震災

第七回忌追悼式・講演会 於 仙台

● 3月10日 東京大空襲慰霊行脚

於 両国・東京慰霊堂

● 3月11日 正隆会東日本大震災

第七回忌追悼唱題行 於 当山本堂

● 3月12日 中村法孝教師師養成特別講習会

満了お祝い会

● 3月20日 春彼岸会中日合同法要

● 3月24日 法華学園理事評議員会

於 尼崎・都ホテルニューアルカイック

● 4月8日 第87回烏山仏教会花まつり（写真）

● 4月10日 法華宗千鳥ヶ淵戦災追悼法要

● 4月11日 興隆学林入学式

● 4月12日 京都大本山妙蓮寺金岳公子

第一〇遠忌大法要（写真）

● 4月17日 猿江別院遷座法要・準備会

● 4月20日 法華宗顧問会

● 4月21日 法華学園後援会・理事会・

評議委員会・理事会

於 尼崎・都ホテルニューアルカイック

● 4月22日・23日 当山つつじ祭り

KUGENJIMA & SAN FRANCISCO

鶴沼・桑港から

晴明庵▶4月19日

同庵をお護りいただいた刀自（老夫人）方の恒例の報恩法要が十余名にて奉修されました。

日蓮教会▶3月26日

快晴の中、美しく生花（スターチス）で飾られた花御堂が置かれた、花祭り釈尊降誕会・春季彼岸法要が40名余の参拝者の中、執り行われました。



当住上人の

宗務院 DIARY

3/6,29,4/10,21,5/13 ▶内局会議

4/5,5/22,30 ▶責任役員会議

2/27-28,3/30-31,4/26 ▶宗門史編纂委員会会議

2/28 ▶全日本仏教会財団創立60周年記念式典典會 於・明照会館

3/24 ▶全日本仏教会仏教懇話会懇談朝食会

於・ANA インターコンチネンタルホテル東京

3/30 ▶全日本仏教会第5回代議員会議 於・しんらん交流館

4/28 ▶全日本仏教会財団創立60周年記念式典典會 於・明照会館

5/18 ▶全日本仏教会財団創立60周年記念事業第2回実行委員会

於・増上寺会館

妙壽寺 2017 夏秋スケジュール

7月16日 孟蘭盆会施餓鬼法要

9月23日 秋の彼岸法要

11月3日 御報恩会式（御会式）



正隆会

【SHORYU-kai】

午後2時開催

月例講
ご案内

当山では、毎月第2土曜日午後2時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人などでも参加できます。例会では、毎回1時半より正隆廟墓前法要を奉修しております。

6月9日（金）課外活動 / 宮城県被災地第7回忌巡拝旅行

7月15日（土）講師勉強会（興隆学林教授 平島盛龍先生）（注：第3土曜）

8月 休講

9月16日（土）勉強会（第2土曜は竹灯籠能開催のため）

10月14日（土）課外活動 予定

11月11日（土）勉強会「法華経の略要品」拝読-2-

一之輔落語×竹灯籠能「鉄輪」

自他ともに認める「十八番」のある断家を目指して目下邁進中の春風亭一之輔。能「鉄輪」は一人の女性の「嫉妬」「怒り」「悲しみ」をストレートに表現した曲。鬼の形相の中に見え隠れする女の恋心が、切なく心に刺さる。ご堪能ください。

平成 29 年 9 月 9 日（土）於 妙壽寺本堂

第一部 一之輔独演会 春風亭一之輔

開演 14:30（開場 14:00）

第二部 竹灯籠能「鉄輪」 浅見慈一

開演 16:30（開場 16:00）

◎入場料（全席自由）
一部・二部通し券 一般 6500 円 学生 4000 円
一部のみ 一般、学生共に 2500 円
二部のみ 一般 5000 円 学生 2000 円

◎チケットお申込み
電話予約 カンフェティチケットセンター
6月25日からの取扱いです
TEL:0120-240-540（平日10時～18時）
当山でもチケットをご用意しております。

◎お問い合わせ…代々木果退会
TEL:03-3370-2757（平日10時～16時）



4月8日 烏山仏教会花まつり（最後列右端、副導師当住上人）



5月13日 法華宗管長推戴式

● 4月30日 智覚院日恵尼上人
第37回忌速夜法要
● 5月1日 猿江別院落慶法要（別記）
● 5月3日 金沢・本因寺報恩茶会
本因寺住職相澤一龍上人発意にて、加賀藩御茶堂頭市井友仙没後三百年追善法要並加賀藩御茶堂報恩茶会が催されました。
● 5月13日 法華宗管長推戴式
京都大本山本証寺貫首桃井日英親下第一三四代法華宗管長推戴式が同大本山において奉修されました。（写真）

● 5月14日 高松・金岳公子
第一〇遠忌大法要
高松城跡・玉藻公園披雲閣において、法華宗四国教区（岡村祥光所長 主催の松平瀬該（よ）りかね・本行院殿慈門金岳源該日教大居士）第一〇遠忌大法要が高松松平家第14代当主の松平頼武氏らが参列して奉修されました。
● 5月20日 本妙院先住内室第七回忌法要
京都大本山妙蓮寺塔頭本妙院先住尾崎日恒（恵隆）上人内室満子刀自（円徳院妙満日富大姉）第七回忌法要が営まれました。
● 5月23日～25日 法華宗宗会

猿江別院落慶記念インタビュー

いのお
稲生恵子氏

（元当山総代 故稲生雅治氏夫人）
聞き手 三吉廣明上人
（平成29年2月8日 於・荒川区の稲生邸にて）

猿江別院建立に至るまで

住職 本日はお忙しいなか、お時間をいただきましたまして、ありがとうございます。

このたび、当山猿江別院が建立される運びとなりまして、一建立ご寄進をいただきました稲生夫人にお話をいろいろ承りたいと思います。ご主人の雅治氏（元当山総代）が亡くなられたのは平成21年8月22日ということですが、今年の8月で丸8年をお迎えになるわけですが、私自身、印象に残っておりますのは、あまりお口数の多いご総代ではなかったのですが、非常に要所所で適切なアドバイスをいただきました。当山住職としましては、今後ますます頼りにさせていただきたいと思っております。た矢先のご発病、それからご逝去ということで、本当に残念に思っております。

猿江別院の建立は、稲生夫人からお申し越しをいただきました。本当に有難く承りました。最初にお話をいただいたときは、どのようなお気持ちだったのでしょうか。

稲生夫人（以下、敬称略） 実は、稲生家の菩提寺ではないお寺さんにお仏像を幾つか納めさせていただいておりますので、妙壽寺様にお仏像を置かせていただけないものかと、ご住職様がお見えになったときにその話を申し上げましたら、「では稲生さん、深川にいずれ分院を建てますので、そちらのほうにいかがですか」とおっしゃいましたのでその場で私が、「では、猿江に分院を建てられるのであれば稲生が自分の先祖供養のために建てさせて頂くという形で、どこか片隅で結構ですので、その意を残して下されば有難く存じます」と。

その前に、実は私が相続で戻ってきた書類を見たときに、祖父の本籍地がなんと深川区大工町となっていたのです。



稲生夫人に一建立施主としての思いを伺った当住上人

稲生家・大竹家と妙壽寺 ― 深川の地が結ぶ縁 ―

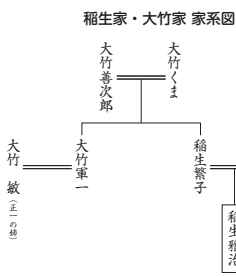
住職 そのようですね。
稲生 それが頭の片隅にあったので、ふとご住職に申し上げたのです。仏像の話も、私がどれほど考えてお話ししているのか…、ぼつぼつと自然に口から出て…。多分ご先祖様が私の口を借りて言わせているのではと思うほど、何の考えもなく話しているのですね。ご住職様がその話に乗ってくださいだったので、今にして思えば感謝の心でいっぱいです。
住職 先ごろの新年会の席で、松永ご総代がかつて掲げた猿江別院建立のコンセプトを7項目ほどあらためてお話されました。
まず初めに「お寺であること」と。そのお寺であることというのはどういうことかというところ、その何番目か後に出てきますが、稲生家の菩提を弔う場所だと。ですから、今回の落慶式も永代供養の法要ということが位置づけですから、そこはそのお話に叶ったことだと思います。

住職 もう一つは稲生家が深川にあったということです。もともとは稲生・大竹家の生業は、肥料の製造業ですね。
稲生 魚を使った肥料です。
住職 それは多分、日本橋に魚河岸（注Ⅱ寛永年間（大正12年）があった頃ですね。
稲生 日本橋三越の前に魚河岸があったそうです。その魚河岸に権利を持っていたとして、そこに祖母が大竹善次郎に嫁いだのが…。

住職 くまさんという方ですね。
稲生 ええ。明治16年には深川区の本籍になっていましたね。
住職 それから現在地の町屋に移られたので



元総代稲生雅治氏



稲生雅治氏とご親族。左から、大竹軍一、大竹くま、大竹敏、雅治、稲生繁子、稲生正一〔敬称略〕

稲生 いいえ、それはもつと前に、日本橋に魚河岸がなくなるときでしょうか。水をたくさん使う商売ですから、多分隅田川の上流を荒川との整合性を選んで決めたと思います。まだこの辺は、葎の生い茂った沼地のような土地で、住宅地ではなかったようですね。
住職 そうでしょうか。

稲生 ですから、私が嫁いできたときは、住まいは熊野前でした。それが不思議な事に、私の父の実家は合羽橋で手広く佃煮の製造問屋を致しておりました。そこで魚粉の材料になる物が出ますが、それを収集に来ておりまして、それが祖母の会社でございました。
住職 まさか稲生家にお嫁になるということはもちろん知らなかったということですね。
稲生 祖母も考えもしなかったようで、そういうご縁はあったようです。

住職 ご縁もあったということですね。
お話に戻りますが、お寺にあるお墓は、並び順は向かって左側から、大竹家、中央が松島家、そして稲生家ですね。松島さんという方は、大竹さんとはどのような関係ですか。
稲生 祖母のくまは、内山くまとして、祖父の大竹善次郎に嫁いだのですが、祖父が病弱で早く亡くなり、その後、祖母が中心となって商売をしていたそうです。

住職 私の曾祖母は、姓は内山で、伊豆の稲取です。内山ギンといって、永隆寺の日研上人に嫁ぐ前は魚河岸にいたと言っていました。
稲生 うちは大網白里です。
住職 ああ、逆ですね。でも、白里ということとは、あのあたりは鷲山寺という法華宗の御本山があるので、そこらのご縁というのは妙壽寺に大いにあると思います。

稲生 そうですか。これは稲生の父から聞かされた話ですが、父の実家は大網白里の苗字帯刀を許された庄屋さんだったそうです。関東大震災で両親を亡くしてしまっていて、それで松島さんが親代わりになったようです。その松島さんという方は、日本橋の魚河岸の中にも場所を持っていた、仔細は私もよくわかりませんが、父の親代わりになっていたのだと、大竹くまが、自分の夫が病弱なので男の人が表へ出てする仕事を結構助けてくださったそうです。松島さんは大変政治に興味

がおありで、川島さんともお友達で…。
住職 川島正次郎先生ですか。
稲生 そうです。
住職 みんなつながりますね。（注Ⅱ川島先生は先々代目照上人の畏友）
ですから、お寺としてはその3つのお墓所をこれから永代でお守りをしていくと…。
稲生 実はお上人に、稲生に跡継ぎがごいませんので先祖供



2階展示コーナーに稲生・大竹家のゆかりの品々を披露

養の為に、亡き夫が建立させて頂いたという思いをどこかに残していたければ有難いと思ひ上げました。

大竹と稲生の菩提をこのように表面に出して下さいました事、恥ずかしいような、うれしいような思いで有難く存じております。
住職 別院2階の展示スペースに稲生家のお品を陳列して、それと日照上人の時代のお友達、実はそこに川島先生も入っています。ですから、稲生家ともご縁があったというのは、今すごい話だなと思いました。

稲生 私はこれ程までお心遣いを賜るとは思ひもありませんで、私が一人残されて先祖のお守りをして行きますお役目の肩の荷をおろした思いで、有難く感謝申し上げます。
住職 私自身も、その肩の荷がおりるといいますか、今回の稲生夫人のお気持ちに住職としてどうお応えをしたらいいのかという思いが常にありました。当山のスタッフらと相談する中で、やはりこれは僕らの代だけでこうした、ああしたという話じゃないねと。

つまり、妙壽寺の歴代住職が江戸時代からずっとつながってきて、その代々で、お檀家の方々にも実は浮き沈みがありました。そういう方々がおられることを我々も忘れてはいけません。それで江戸時代に行き来をした組寺のお上人方に、稲生・大竹家に対してお経をあげていただくということが、大変意義のあることだと思っております。

時代によって、1500年位で人の気持ちは変わると言われていますが、確かに変わります。変わりますが、変わってはいけないことでもある。その気持ちを大切に、今いきなりここにあるのではなくて、歴代につながっていることがあると。

確かに稲生家はここで一つの区切りがあるかもしれません、そこを大事に我々は考えていくことで、今度は次の代に、血はつながっていませんけれども社会はつながっていくわけですから、その社会の人たちが良い方向に行ってもらわないといけないのではと、つくづく思います。
稲生 そうですね。だから私も、残されたもの、実はそういう自分の血筋に配る気はないとか、それは私が嫁いできたときから持ってきたものじゃないもの、やはりその代で途絶える家というのは、もう役割が



落慶を祝し、鏡割りのあと乾杯



稲生・大竹家のご親族ご関係の方々と稲生夫人

終わつたのだと言われますが、それで私、すーんと気持ちが楽になったのです。

今は亡き夫に、長思いたないようにあの世から呼んでねと頼んでいます。私があちらに召されたら、あちらの入り口に夫がここにこ笑って迎えに来て…。

住職 それは日蓮聖人のお約束の文章に書かれておりますから。

稲生 そうですか。君、ご苦労さんだったねって、きつとね。

住職 日蓮聖人が、ちゃんと引き合わせるとも具体的に書かれているのです。「丑寅の渡殿」で、成仏の作法も教えてあげるよと。そのかわり、こっちに來るときにはお題目をとえなければだめだよと。その後、縁のある方たちにお引き合はせしますよと言っておられるから、それは間違いない話です。

お寺本来の役割 ― 集いの場所に ―

ご主人のお話に戻りますが、私は稲生さんという方は恬淡としていて、ご総代として接していただく中で、非常に哲学を感じたご総代は稲生さんと長島（伸行）さんでした。
稲生 ありがとうございます。

住職 稲生さんは、非常に深いものを持っておられました。それでいて無欲で、出過ぎない方だったなど記憶しております。その思いがきつと奥様に移って、それが今回のお寺の事業に結びついているのではないかなと思います。

稲生 多分、夫はそういう意味で自分からしゃしゃり出る人ではないので…。私に愚痴も言わない、泣き言も言わない。だから、あれだけの大きな病気を自分一人で全部背負い込んで、決して最後まで諦めなかった人だと思ひます。

住職 静かで、やはり前向きな方だったのですね。
稲生 本当にそういう意味では、はじめがきちんとした人で、「君とはもう一度ステージを変えて一緒に暮らしたい」というのが最後の言葉で、そこには、「さよなら」という言葉はありませんでした。

住職 素晴らしいですね。
稲生 私、最近世の中って結構全てがミスマッチだなと思っています。つまり、教えた人はいらる、教わりたい人はいらる。だけど、それがうまくマッチしていかない。教えた人は場所がないとか、機会がないとかということなので、そういう人たちの交差点とかブラットホームのような、そういう場所に別院がなればと思っています。

稲生 本当にそう思います。
住職 ですから百年ほどの時を超えて、昔の妙壽寺があった場所で、また復活するというのは、先ほど申し上げたように再興本願主再び興すですから、それを稲生家が志していただいたということに、もう本当に感謝、感激でございます。

今日はありがとうございます。いいお話をお伺いできてありがたかったです。
稲生 こちらこそ、ありがとうございます。
住職 今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。

（了）